

# 霞ヶ浦導水事業は中止を

日本共産党

塩川鉄也衆院議員が 追及

決算行政監視 委員会

ずさんな 計画

## ムダな大型開発から湖を守り 豊かな自然を取りもどそう

昔のように楽しく泳げる湖水浴場、豊富なワカギ漁、きれいな湖面の霞ヶ浦を取り戻すことを茨城県民だれもが願っています。

この霞ヶ浦の浄化と水需要に応えるという目的で、いま、国土交通省が、那珂川・霞ヶ浦・利根川を長いトンネルでつないで水を混ぜ合わせるという「霞ヶ浦導水事業」を千九百億円のお金を使っていてすすめています。

これには多くの県民から「霞ヶ浦の生態系が崩れる」「浄化どころかかえって汚れる」「水需要は過大な予測からだたてたもので、ムダな公共

事業は中止すべきだ」など事業に反対する声があがり、大型開発から湖を守り、豊かな自然を取り戻そうという運動が広がっています。

日本共産党は、事業の中止や見直しを求める多くの県民と一緒に運動をすすめることにも、県議会で再三にわたり質問してきました。

日本共産党の塩川鉄也衆院議員は、この間、霞ヶ浦導水事業の現場を視察し、事業の見直しや中止を求めて運動している団体の代表と懇談。七月二十三日に開かれた衆院決算行政監視委員会で、霞ヶ浦導水事業について質問しました。

### 那珂川からの導水で チツ素濃度が上がると追及

塩川議員は「導水事業の目的の第一に水質浄化を掲げているが、旧建設省時代にまとめられた資料では、霞ヶ浦への導水で、COD、クロロフィルa、リンの値は低下するが、チツ素の値は上昇するとしている。」「チツ素もリンも引き下げることが水質浄化につながるわけだが、チツ素濃度が上昇するのでは、かえって霞ヶ浦の汚濁をすすめることになる」と追及しました。これにたいして国土交通省は「チツ素が増えてもリンが水質汚濁の制限因子になるのでCODは増えない、水質改善に効果がある」と答弁しました。

### 水質浄化に逆行 “COD” 上昇の可能性認める

塩川議員は、茨城県の生活環境部霞ヶ浦対策課がまとめた冊子『霞ヶ浦学入門』では「制限因子がチツ素に移行していると指摘している」とのべ「チツ素濃度の高い那珂川の水が導水されれば、植物プランクトンの増殖は現在よりも活発となり、CODが結果として上昇するのでは」と質問し、政府にきちんとした調査を求めました。国土交通省は、その指摘を認め「問題があれば対策をとる」と答弁しました。

続いて事業費について質問しました。

次ページへ



霞ヶ浦導水事業は中止をと迫る塩川議員 = 7月23日、衆院決算行政監視委員会

### 規模縮小——県民納得の事業費で

二〇〇二年九月十二日の茨城県議会総務企画委員会、日本共産党の塚越恵子議員は、過大な水源を開発する霞ヶ浦導水事業問題をとりあげ、中止を求めました。

塚越県議は同事業の目的の一つに「水質浄化」をうたっていることについて、国会で塩川鉄也衆院議員の質問にたいして国が「湖沼の水質はむずかしい問題を含んでいる。問題があるならば対策を講じる」と答弁したことを紹介。「いまでも県は浄化できるというのか」と見解を改めていただきました。

また、規模を縮小したにもかかわらず、総事業費は千九百億円変わらないとしている点について、塚越県議は、水道料金に上乘せされる事業費が「安くならないのでは県民は納得できない」と国追隨の県の姿勢を批判しました。

### 関東一高い水道料——引き下げでも先頭に

茨城県では、過大な人口想定による水資源開発費の増大が、関東一高い水道料金の値上げに拍車をかけています。塚越恵子県議は、取手市を中心とした周辺自治

体の自治会、町内会、住民団体などをつくる県南水道問題協議会の皆さんと一緒に運動をすすめて、県南地域の水道基本料金の値上げを十年以上にわたってストップさせてきました。



導水事業と水道問題の学習会で講演する塚越県議 = 2002年5月

### 県議会でも事業中止迫る 総務企画委で塚越県議

COD = Chemical Oxygen Demand の略。日本語訳は「化学的酸素要求量」。環境省の「湖沼水質調査」の指標として使われる。簡単にいえば、水の中に含まれている汚れ（主に有機物の汚れ）を数値化したもの。

日本共産党衆院議員 塩川鉄也  
事務所二ユース 2002年10月号外

ホームページ <http://www.cpi-media.co.jp/shiokawa/>

〒330-0844 埼玉県さいたま市下町 1-80-1 大丸ビル1F ☎ 048(649)0409

# なぜ計画縮小でも 事業費変わらぬ

1900  
億円

でたらめな計画は中止を——日本共産党

塩川議員は、霞ヶ浦導水事業が、茨城県から出された水需要の下方修正により、導水管の規模縮小が協議されているなかで、工事費が今までと同じ千九百億円と、工事費をごまかしている点について追及しました。

## なぜ昨年の計画変更時に 事業費見直しをしなかったのか

国土交通省が、事業期間を十年間延長した昨年九月には、総事業費千九百億円とされていたが、その後、茨城県が水源開発見直しの一つとして、導水事業の見直しを要請。これを受けて国土交通省が今、事業規模縮小にむけた新たな事業計画の変更をすすめているが「その結果として千九百億円の事業費は減るのか」と質問しました。

これにたいし国土交通省は「技術的に調査した結果、事業費が増える要因もあり、プラス・マイナス差し引きゼロで現段階では千九百億円かかる」「増要因としては、物価増、消費税率の変更、地質精査などその他がある」と答弁。

塩川議員は「昨年九月の事業変更計画変更のときに、物価増・消費税率の変更・地質精査などは当然見込めたのではないか」「なぜ計画変更時に、こういった事業費の見直しは、しなかったのか」と追及しました。

## 千九百億円では済まなかった “でたらめな計画は中止を”

また、塩川議員は茨城県議会で日本共産党の塚越県議の質問に対し、茨城県の水・土木計画課長が「計画を縮小してト



霞ヶ浦の湖岸を視察する塩川議員＝2001年3月、土浦市

ンネルを少し小さくしたのに、なお千九百億円という事業費が変わらないのは、いままでの計画ですすめば千九百億円では済まなかった」「このまますすめば二千億円は超えてしまったのではないかと答弁した内容も明らかになり、政府答弁のでたらめさを厳しくただしました。これに対し国土交通省は「指摘の通り」と認めため、塩川議員は「でたらめな計画は中止を」と強く求めました。

## 霞ヶ浦の豊かな自然を取りもどそう

塩川議員は昨年三月、霞ヶ浦の豊かな自然を取り戻そうと「アサザ・プロジェクト」にとりくんでいる「NPO法人アサザ基金」の事務所を訪れ飯島博理事長らから説明を受け、懇談しました。これには佐藤せいごう党茨城県政策委員も同席しました。



「アサザ基金」の飯島理事長らと懇談する塩川議員(中央)と佐藤県政策委員(右)＝2001年3月、牛久市

かつて霞ヶ浦のどこにでも群生していたアサザが絶滅の危機にさらされています。主な原因は霞ヶ浦総合開発により湖岸の大半をコンクリートで護岸し、湖水位を人工的に上下させるダムとしての操作だと言われています。また、いま進められている導水事業なども「マイナスの効果」が大きいと指摘され、飯島理事長らは、導水事業の凍結を求めています。

懇談のなかで飯島理事長は引き続き開発計画の見直しを求めたいとして、国会議員のなかにも「私たちの陳情を受けてくれる場をつくってほしい」と語りました。塩川議員は、必要のない公共事業をストップさせた例なども紹介しながら、霞ヶ浦導水事業のストップにむけ一緒に取り組むことを約束しました。

## ずさんな見積り 膨らむ事業費 その背景にゼネコンからの政治献金が

この質問を通じて、事業費見積りもりのずさんさが、浮き彫りになりました。このままでは、いま予定されている総事業費千九百億円も、どこまで膨らむかわかりません。

たとえば、霞ヶ浦を「ダム」にする霞ヶ浦開発事業（一九六八年～九五五年）では、当初、事業費が三百十五億円の計画でした。しかし、四回にわたり事業実施計画が変更され、事業費も当初予算の九倍もの二千八百六十八億円に膨れあがりました。

ではなぜ、事業費が膨らむのか「その背景にゼネコンからの政治献金がある」と塩川議員は指摘します。霞ヶ浦導水事業に関係する工事を請け負った主要企業から、自民党に過去一〇年間だけでも、三二億円（一九九一年～二〇〇〇年の合計）もの政治献金が渡っています。

この癒着を断ち切るためにも日本共産党は、企業・団体献金の禁止を求め、当面「公共事業受注企業からの献金禁止」をめざしています。



導水路「桜機場」を視察する塩川議員(中央こちら向き手前)と大内県議団団長(右端)、塚越県議(左端)ら＝2001年6月、水戸市

## 霞ヶ浦生態系研究所長・農学博士 浜田篤信さんの話

霞ヶ浦の漁業と水質は大変深刻で、巨大な開発事業が原因です。この解決のためには、導水事業の即中止、水資源開発事業の根本からの見直しが必要です。

感謝するとともに、これまで以上に活躍していただきたいと思います。



浜田先生(左)から水質問題で説明を受ける塩川議員(右)＝2002年6月

こうした問題の先頭に立って活動してきたのが、共産党の議員です。私は霞ヶ浦水産関係者を代表し